

土木交通・警察・企業常任委員会 県外行政調査

1 調査日 令和元年11月5日（火）～7日（木）

2 調査の概要

(1) 11月5日（火）

○十勝バス株式会社（北海道帯広市）

北海道においては、公共交通の利便性向上に向け、鉄道、バス、タクシーの連携により、観光客を対象としたMaaS実証実験が進められており、十勝はそのモデル地域に選定されている。

十勝バス株式会社は、こうした取組みに積極的に参画しており、人口減少時代における路線維持のため、他の交通機関との連携、路線上の施設を組み合わせた企画商品の開発など、様々な事業を展開しているところである。

こうしたことから、今後の委員会における審議の参考とするため、十勝バス株式会社における取組みの状況等について調査を行った。



(2) 11月6日（水）

○夕張市役所（北海道夕張市）

夕張市は、「攻めの廃線」として、需要が減少していたJR石勝線夕張支線の廃線を容認することし、事業者との協議の結果、同線は平成31年3月末で廃線となった。

現在、同市においては、鉄道の代替交通として、既存のバス路線を再編した「夕張市内線」が運行されており、同線を軸とした交通体系の整備、コンパクトシティ化が進められている。また、今年度には、まちづくりの拠点として、バスターミナル、公民館、子育て支援施設等を備えた複合施設も整備される予定となっている。

こうしたことから、今後の委員会の審議の参考とするため、夕張市における公共交通体系の再編状況等について調査を行った。



○道の駅 マオイの丘公園（北海道夕張郡長沼町）

道の駅 マオイの丘公園は、平成9年のオープン以来、長年にわたって、多数の観光客や地元住民が休憩等のために利用する町の重要な施設である。

同施設においては、町産の野菜を用いるレストランや石狩平野を一望できる展望台等が設置されており、特に、野菜や果実等が農家から直接持ち込まれる全8店舗の農産物直売所は、人気の施設となっている。

こうしたことから、今後の委員会の審議の参考とするため、道の駅 マオイの丘公園の運営状況等について調査を行った。

○札幌市水道記念館・藻岩浄水場（北海道札幌市）

札幌市の水道事業は、給水人口196万人、給水普及率99.9%と全国有数の大規模なものとなっており、水道事業に係る様々な広報活動も積極的に行われているところである。

広報活動の拠点である札幌市水道記念館は、藻岩浄水場の敷地内に設置されており、参加・体験型の展示や浄水場見学ツアーの実施、水道関連イベントの開催等を通じて、年間10万人以上もの見学者が訪れている。

こうしたことから、今後の委員会の審議の参考とするため、札幌市における水道事業の広報活動および浄水場の管理状況等について調査を行った。



(3) 11月7日(木)

○北海道警察本部(北海道札幌市)

平成30年9月、北海道胆振地方中東部を震源地とする北海道胆振東部地震が発生し、道内では多大な人的被害、建物被害等が生じたこととなった。

北海道警察本部においては、同地震の発生に伴い、被災現場における救出活動、捜索活動や大規模停電に伴う交通信号機滅灯への対応、避難所での被災者支援、被災地における警戒活動など、各種の災害警備活動が実施されたところである。

こうしたことから、今後の委員会の審議の参考とするため、北海道警察本部における北海道胆振東部地震への対応について調査を行った。

